

京師節女

【大昌里】不明。長安城内にあった街の名であらうか。

【仇人】ギウジン 夫をかたきとしてつけねらう人。仇（讎）後出。

【無道】一途、ただちに、すなわち、正直。あるいは上文に続けて、無道徳と説むべきか。

【劫】ケフ（脅）【要】もとめる、強要する。

【爲中絶】（補注）『藝文類聚』引中絶作「中絶」。校注按、誤乃嗣之誤。（開も嗣（けし）も、うかがいさぐるの意。中から手引きすることをいう。嗣ケツ・官部二二画）

【計念】ばかりおもふに。於世までかかる。

【以身當之】天の身代りになる。

【且日】（校注）『藝文類聚』作「因日夜」。

【新沐】（校注）『藝文類聚』「太平御覽」、下有「頭字」。新は、新婚などの新の意。

【戸牖】コイウ 門戸のこと。

【還其家乃告其夫】（校注）『太平御覽』作「還其夫」。

【陰語】『新羅公簡』「志士仁人、無求生以害仁、有殺身以成仁。」

京師節女者、長安大昌里人之妻也。其夫有仇人。欲報其夫而無道。徑聞其妻之仁孝有義、乃劫其妻之父、使要其女爲中譎。父呼其女告之。女計念、不聽之、則殺父不孝。聽之、則殺夫不義。不孝不義、雖生不可以行於世。欲以身當之、乃且許諾曰、且日、在樓上、新沐東首臥、則是矣。妾請開戶牖待之。還其家、乃告其夫、使臥他所。因自沐居樓上、東首開戶牖而臥。夜半、仇家果至、斷頭持去。明而視之、乃其妻之頭也。仇人哀痛之、以爲有義、遂釋不殺其夫。君子謂節女仁孝、厚於恩義也。夫重仁義、輕死亡、行之高者也。論語曰、君子殺身以成仁、無求生以害仁。此之謂也。

頌曰、京師節女、夫讎劫父、要女聞之、不敢不許。期處既成、乃易其所。殺身成仁、義冠天下。

〈参考〉 東婦節女の事

昔唐に東婦の節女と云ひけるは、長安の大昌里人と云ふ者が妻なりけり。其の夫に敵あり、常に伺ひけれども殺す事叶はず。かたき節女が父を縛つて女を呼びて云く、汝が夫は我が大なる敵なり。其の夫を我に与へずば汝が父を殺さん、と云ひければ、女答へて云く、妾夫を助けんために、いかでか生育の父を殺させん。速かに汝が為に妾が夫を殺さしめん。妾常に樓上に寝ぬる。夫は東首に臥し、妾は西を枕とす。須く来つて東首を切れ、と教へて、家に帰つて思はく、父に恩愛の慈悲深し、夫に借老の情の浅からず。夫の命を助けんとすれば父の命危し、父が身を育まんとすれば夫の身亡びなんとす。如かじ、父を助けんが為に夫を敵に与へつ、我又夫が命に替らん、とて、自ら東首に伏して夫を西に枕せり。敵伺ひ入つて、忽ちに東首を切つて家に帰りて、朝にこれを見れば夫の首にあらずして妻が頭なり。敵大きに悲しみて、此の女父の為に孝あり、夫が為に忠あり。我いかがせん、と云ふ。終に節女が夫を招きて、長く骨肉の昵びをなしけり。